

上京

史蹟と文化

2007 VOL. **32**



美を創る

金剛流宗家

金こん

剛ごう

永ひさ

謹のり

上京区烏丸二条下ル



伝統と古典美について談笑する金剛永謹宗家と
上京区文化振興会小谷会長

能楽シテ方五流派の一つである金剛流の能舞台が、室町四条から縁ゆかりの上京区に移され、平成十五年六月に新しい金剛能楽堂が開館してから早くも三年半、京都御苑の西隣にすつかり定着した感がする。

新しい能楽堂は小川治平衛作の庭園の中に建てられ、その中に百三十余年の間、舞いつづけられた能舞台が移築されている。大きな老松の絵が描かれた鏡板は円山応挙の弟子といわれる巖城清灌いわきせいかんの作で、橋掛りの青海波せいがいほ文様はかつて京都御所にあった能舞台の文様を写したいう由緒を持つ。雅な雰囲気みやびの漂う御簾みす席も特色といえよう。能舞台の下には残響を減らすために大きな瓶かめが入れていることは知られているが、ここでは建物がコンクリート造であるために残響が起きやすいので、五つの瓶のほか木製の薄い箱を床下に敷き詰めて吸音材としているという。新しく取り入れられた数々の設備が能楽の美をさらに発揮させることに期待が寄せられる。

能楽は謡と囃子と舞、それに面や能装束によって演じられる伝統芸能で、六百年の歴史を伝える。古代よりの猿楽の能が、いかにその役に化けるか、似せるかという物真似が主な芸であったところへ、幽玄を目標とする田楽の芸が取り入れられて、能楽が成立していった。

能には現在能と夢幻能の二つがある。現実世界の出来事を描き、現在進行形の流れて話が進んで行く現在能に対して、夢幻能は過去の出来事を回想することによって主人公の内面が動かされ、そこに生起する心の動きをもって夢幻を演じるのだと云う。

金剛流の発祥は、古くは奈良の法隆寺に奉仕した坂戸座に始まり、室町時代初期には春日興福寺に奉仕する大和猿楽四座のひとつから金剛座となり、現在の金剛流に至っている。

金剛流の芸風は舞金剛といわれ、豪快でめざましい動きの中に、華麗さと優美さがあるとされる。また金剛家には能面や能装束が多く伝えられ、豊臣秀吉拝領の「雪の小面」や艶



麗な「孫次郎」などは面金剛と言われるにふさわしい名品といえる。この金剛流を率いる宗家の金剛永謹氏の舞姿に金剛流の美を感じとる人がごまよひ。



お正月用の飾り付けを施した舞台

浄福寺通

おとし

大 路 小 路

こうで



上京区内には蘆山寺通や元誓願寺通のような寺名のついた通りがありますが、現在も寺名と結びついているのは、浄福寺通と智恵光院通だけです。もともと浄福寺通は寺之内通から丸太町通までの四キロメートルでした。今では北の方へも延び船岡山麓の細い曲がりくねった道も浄福寺通と呼ばれるようになり、南は昭和三年の御大典の博覧会場跡が住宅地に整備されたことよって竹屋町通まで延長されました。



称念寺 猫松

浄福寺通の南に猫寺で知られる称念寺があります。慶長十一年（一六〇六）に伏見城代であった松平伊豆守信吉が建立し、松平家の菩提寺となりました。猫寺の名は、三代目の住職の時に猫を飼い過ぎて寺が衰微し、松平家と不

和になったことによります。しかしこの時偶然にも松平家の姫の臨終にあたり、姫に猫の霊がのりうつって称念寺での葬儀を遺言しました。これにより、再び寺が栄えたと伝えていきます。

本堂前の老松は猫松といわれており、墓地には犬猫生物供養碑があります。最近では捨猫が増え、寺は迷惑しておられるようです。

大
路
小
路
浄福寺通
JOFUKUJI DORI

大黒小路

大黒町



大黒町

寺之内通と上立売通の間を大黒町といい、ここに足を踏み入れると周囲の風景が一変します。町家が軒を連ね、敷石で舗装されているところから昔の西陣の織屋街を思い出させるのでしょうか。中でも西側の織成館おりずかんは西陣の実際を知ることができる施設です。財団法人手織技術振興財団が、その振興を図るために、西陣はもとより全国

の手織物や能装束などを展示しており、手織を中心とする染織文化と工芸文化を広く一般に知らしめています。昭和十一年の建築という織元「渡文」の織屋建おりやだてを生かした町家の見事な構造に目を見張らせます。隣には島根県の東須佐小学校校舎の古材を活用して建てられた須佐命舎すさめいのやがあります。これは来日して宮大工となったマイケル・アンダーソン氏が設計して平成七年に建てられました。

大黒小路

岩神祠

ROCKY GODS

大黒町東側は今では建物が取り払われて広い空き地になっています。そこにぼつんと小さな祠ほらが鳥居とともに建っています。これが岩神いわがみです。石神・岩神社とも書かれ、そこにある大きな石が御神体の神社なのです。高さ一・七メートルほどの赤味を帯びた巨石で、江戸時代には、ここに有乳山岩神寺があり、延宝五年（二六七七）刊の『出来齋京土産』には「女の乳の出ざるに、いのりぬれば、乳よく出るとして、乳母おちめ等ふかく信仰す」とあるように授乳の神として信仰されて来ました。享保十五年（一七三〇）の西陣焼け、天明八年（二七八八）の大火に類焼したあと、明治になって廃寺となり、石だけが残されていました。その跡地は岩上座という芝居小屋となりましたが、地元の人たちからは「岩神」として崇められ、大正六年に岩上座の跡地を所有した織物会社が祠を建てて神社として神事を行うようになったといえます。その建物が取り壊されたあと、現在のように整備され、道路からもよく見えるようになったのです。

この石は、もともと二条堀川付近にあったのが、徳川家康の二条城築城によって岩神通六角へ運び、形のよい石だということで後水尾天皇の女御中和門院の御所へ

京料理 京都祇園 はなさと

花郷

京都・四条花見小路通下ル西側三筋目
電話〇七五―一五六―一三三二―（代客）

—いつも新しい感動を—

京都御所西、閑静な住宅街に溶け込むシックな外観。
さわやかな水のせせらぎが聞こえ、
やわらかな自然光がふりそそぐアトリウムロビー。
7つの多彩なレストラン&バーで、
ブライント流のきめ細やかなサービスをお届けします。

〈客室〉183室
〈レストラン&バー〉

- 京懐石「壺（はたる）」 ●鉄板焼「焼（ひもろぎ）」
- フランス料理「ヴィ・ザ・ヴィ」 ●テラスレストラン「フェリエ」
- ラウンジ「クー・オ・ミディ」 ●中国料理「花蘭（かかん）」
- メインバー「ムーンシャイナール」

京都ブライントホテル
〒602-8071 京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411(代) FAX.075-431-2360
ブライントホテルズホームページ
<http://www.brightonhotels.co.jp/>



岩 神 祠

移されました。その後、小僧に化けるなどの怪異に悩まされたところから、御所の北門の辺りに置かれていたのを、蓮乗院という御所のお祈りをしていた僧によって現在地に安置されて岩神寺になったなど、いろいろな伝説に包まれています。

なおこの付近には、西陣聖天といわれる雨宝院や千代野井のある本隆寺、首途八幡宮などがありますが、別の機会に紹介したいと思います。



浄 福 寺 赤 門

今出川通を越え、笹屋町通を過ぎると、西側に赤く塗られた門が見えます。これが浄福寺の東門です。俗に「赤門寺」といわれるのはこの門に由来します。恵照山と号する浄土宗の寺で、延暦年間（七八二〜八〇六）に桓武天皇の勅を受けた興福寺の僧賢懐が村雲の地（今の堀川今出川辺り）に堂宇を構え、唐から請来した釈迦如来像を本尊としたと伝えられています。

ますが、一方で宇多天皇の生母班子女王が寛平八年（八九六）に建立、定額寺に列せられ、浄福寺の額を賜わり官寺待遇となったという史料（類従三代格）もあって、この説の方が正当だとされています。

その後、再三の火災や移転が繰り返されますが、

江戸時代に入って元和元年（六一五）に相国寺門前北から現在地に移ります。したがって豊臣秀吉の市街地改造により開かれた道路に浄福寺通の名がつくのは元和元年以降ということになります。今の諸堂は享保四年（二七一九）に類焼したあとの再建ですが、天明の大火（一七八八）の

焼失を免れています。本堂は享保十八年（一七三三）に番匠岩佐藤四郎によって造営され、礼堂、合の間、仏殿を一棟に納めた複合建築で、古式をよく受け継いでいます。裳階で二層に見せるなど変化に富んだ浄土宗本堂の姿を見せており、本堂の東にある釈迦堂は宝



浄 福 寺 本 堂



廬山寺通

称念寺 卍

寺之内通

織成館

上立売通

五辻通

今出川通

笹屋町通

浄福寺 卍

一条通

中立売通

上長者町通

下長者町通

出水通

下立売通

丸太町通

竹屋町通

jofukuji dori

大黒町
卍 岩神祠

卍 慧光寺

⊗ 正親小

⊗ 二条城北小
中務町

卍 松林寺

暦六年（一七五六）、六間取^{むまどり}の方丈

は明和元年（一七六四）、書院は

享保十九年（一七三四）の再建で

す。四方吹放しの鐘楼は寛永五年

（二六二八）で現在地に移転後の造

営と見られ、享保四年の火災をも

免れており、上京区内では貴重な

古建築です。一間薬医門の南門は

細部意匠から江戸時代前期、朱塗

の東門は様式的に江戸時代後期の

造営と推定されています。この八

棟は江戸時代の浄土宗寺院の伽藍

配置と建築様式をよく伝え

ているところから京都市指

定有形文化財に指定されま

した。また、鎌倉時代の阿

弥陀三尊二十五菩薩来迎図

と延徳元年（一四八九）に

描かれた十王図は重要文化

財です。

なお境内の浄福寺幼稚園

は、明治二十年十月に建仁

寺、本圀寺、妙覚寺と浄福

寺で始めた共済学校に由来

設です。

慧光寺

浄福寺の向かいにある慧光^{えこう}

寺は日蓮宗で山号を智照山とい

います。天文年間（一五三二）

一五五五）、足利將軍の家臣であつ

た野本式部少輔輝久が、將軍足利

義輝を暗殺しようとする陰謀をも

つ三好長慶の家臣に殺されたあと、



慧光寺

お気軽にご相談下さい！/ 賃貸・売買から建築・リフォームまで。

ERA
MAXIMUM GROUP
株式会社 **ハウズ**

0120-4970-26

〒606-0864
京都市左京区下鴨高木町6
TEL.075-706-1715 FAX.075-706-1714
URL:http://www.erahouse.com

歴史文字シリーズ

伝達浪漫

「ハゲタカの碑」一権力のしるしとして、手にして敵を屈服させると記されている。

和光印刷株式会社

〒602-0012 京都・烏丸通上御雲前上ル TEL.075-441-5408代
E-mail:info@wako-print.co.jp

輝久の室、伊佐が亡夫追福のために自ら剃髪して妙法尼と号し、私第を寺としたのが草創とされています。輝久の法名慧光を以て寺号とし、のち新在家（今の上長者町烏丸辺り）に移り、法義を弘通（法を広める）としたことから弘通處の名で呼ばれたそうです。

天正年間に現在地に遷ります。享保十五年（一七三〇）に類焼し、その後再建されました。また寺では秘法の目薬を製造し諸人に販売していました。この目薬は明治時代になっても販売されていたようです。

大内裏と聚楽第

一条通から南は大内裏、中立売通から南は聚楽第の範囲に入ります。しかし残念ながら目に見える遺跡はほとんどありません。出水分の一筋南を東へ入ると松林寺があります。松林寺は浄土宗鎮西派

に属し、慶長十四年（一六〇九）に僧清印によって二条河原町辺りで開かれ、元禄（一六八八～一七〇四）の初年に現在地に移転しました。この境内地は道路より低くなっており、聚楽第の堀の名残りとして残っています。

やがて丸太町通に近づくると二条城北小学校の横を通りますが、この辺りを中務町といえます。ここは平安宮の中務省の位置に当たり、その名を町名に残しているの

です。いわば往時の官庁街の中核の地でした。今の丸太町通は明治四十五年（一八七四）に市電を通すために拡張されますが、それまでは二間幅（四メートル）の細い道でした。これより南は明治三年に懲役場が設けられ、徳川幕府の六角の獄舎を移して京都監獄となりました。その後、山科へ移転します。そのため監獄を避けてその北側に市電を通したために大きく迂回しているのです。（出雲路敬直）



松林寺

永年の信用
まごころのご奉仕

葬祭センター

公益社

本社 京都市中京区烏丸通三条下る ☎075(221)-4000
フリーダイヤル ☎0120-00-4200 <http://www.koekisha-kyoto.com>

◆ 葬儀式場 ◆

- 公益社北ブライツホール(堀川黎明) 京都市北区黎明通堀川東入 ☎ 075(414)0420
- 公益社中央ブライツホール(五条大和路) 京都市東山区五条通大和路 ☎ 075(551)5555
- 公益社南ブライツホール(堀川八条) 京都市南区堀川通八条下る西側 ☎ 075(662)0042
- 公益社西ブライツホール(五条西大路) 京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎ 075(322)0042
- 公益社宇治ブライツホール(宇治横島) 宇治市横島町(文教大学前) ☎ 0774(20)0042
- 公益社滋賀ブライツホール(大津) 大津市朝日が丘1丁目 ☎ 075(523)0042

上京の埋蔵文化財

— 閑院宮邸跡庭園の調査 —

京都御苑の南西角に、復元整備された宮家の庭園が公開されているのをご存じでしょうか。

京都御苑内には、皇室や公家の庭園跡がいくつか今も残っています。これらの庭園は、御所の周囲に造られた公家の邸宅内に営まれたもので、江戸時代に造られて以来、ほぼ旧状を保ちながら、現在



図1 調査前風景 (東から)

に至っている貴重な庭園遺構です。

その中の一つである閑院宮邸跡庭園は、現存する数少ない宮家の庭園として知られていましたが、これまで一般には公開されていませんでした。

今回、宮家の旧敷地内にある明治時代の建築物と共に庭園が活用されることになり、作庭当時の姿を知るための調査を、平成一六・一七年の二年度にわたって行うことになりました。

「庭園の現状と旧状」

庭園は、環境省京都御苑管理事務所の敷地内の南半分を占め、池は南東寄りに位置しています。池の南岸には築山や景石が配置され、池の中央東寄りには景石の置かれ

た中島があります。また、水際(汀)には人頭大の川原石を敷き詰めて州浜が表現されています。池の水は、庭園の北東側から禁裏御用水が引き込まれ、南東から堀を潜って丸太町通の共同溝に排水しています。池の周辺は、芝生が広がり、休憩場所としての四阿が設置され、その北側に築山が造られています。

これは、復元整備された庭園の景観ですが、公開される以前の庭園は、このような景観ではありませんでした。北岸には間知石積の護岸や石段、東岸には禁裏御用水を区画するコンクリートの通路と取排水口、その他の岸には木杭などを使用した護岸が造られています(図1)。しかし、そのような護岸も長年の水の浸食により、土が流出して大きく形が変わり、崩壊の危機に瀕していました。

「閑院宮家の来歴」

閑院宮家は、江戸時代の中頃に

当たる宝永七年(一七一〇)、新井白石が皇統の断絶を危惧して幕府に進言して新設された宮家です。東山上皇の第六皇子であった秀宮(直仁親王)が初代となつて、家領千石と東山上皇の旧院跡にあった建物、現在の場所を宅地として拝領しました。邸宅跡は、明治一〇年(一八七七)に宮家が東京に移つた後、華族会館や裁判所として使われていましたが、明治一六年(一八八三)に旧宮内省京都支庁が設置され、現存する建物がその時に建てられたものとされています。このような史実は、文献や記録、宮家の日記などからわかっていましたが、宅地と庭園がどのような変遷を辿っていたのかについては、絵図と地図に頼ることになりました。

「絵図と地図に見る宅地の変遷」

江戸時代前期の絵図によると、京都御苑南西角は町家であり、その後宮家が土地を拝領する直前

までは空地でした。一八世紀前半には空地の一部であるL字形の土地に建物を移築したようです。幕末まで、L字形の敷地は変わりませんでした。したが、明治九〜一五年には空地となった絵図があり、明治一六年の絵図に土地の所有者が宮内省となって、初めて池の絵が描かれました。明治四〇年の絵図には、詳細な池の形と建物配置が描かれ、L字の出っ張り部分（敷地南東部）には東に広がる池や橋が架けられていた様子を見ることができます。ところが、大正四年の大正天皇即位大札に伴う御苑大改修で東築地塀が南に延長されたため、敷地南東部が敷地外となり、池の東半分はその際に埋め立てられてしまいました。

以上のように、江戸時代に池が造られたと考えられるものの、実際いつ頃のもので、どのような護岸で、また当初から位置が変わっていないのかなどの疑問が残りました。

平成一六年度に行った調査は、池の復元整備の資料を得ることを目的に行ったため、池の陸部から汀、池底にかけての調査が中心となりました。

「庭園の試掘調査」

北岸の調査では、間知石積護岸と階段部分の下から、一時期古い階段が出土し、現存していたものは昭和一〇〜二〇年代以降の新しい時期に造られたものであることがわかりました(図2)。西岸の調査では、陸部から池底にかけての傾斜が緩やかであることがわかり



図2 北岸：間知石積護岸の下から旧階段検出（南から）



図3 古墳時代土器出土状況（北東から）

ました。池底では、堆積土の下から古墳時代初頭の土器が出土しました(図3)。南岸の調査では、旧汀が出土しました(図4)。旧汀は、人頭大の川原石を隙間なく敷き詰め、石を固定するために粘土を使用して丁寧^{ていねい}に貼り付けていました。それらの石は、護岸と修景を兼ねた州浜であるということがわかりました。

また、陸部は全体として後世に盛土が行われたために、池底との高低差が大きくなり、汀の勾配がきつくなつたことがわかりました。そのほかの大きな成果としては、



図4 南岸：人頭大の石を敷き詰めた洲浜（北東から）

池底が作庭当時と改修後の新旧二期あったことです。新池底は、北岸から西岸にかけて、拳大^{こぶし}の礫を敷き詰めて造られていましたが、中島の周辺や南岸、東岸では検出することができず、また、この辺りの池底が急に深くなることを確認しました。北岸から中島にかけての池底の堆積土を掘り下げていく中で、人頭大の川原石を二〜三段に積み、隣り合う川原石の間に木杭を打ち込んだ護岸が現れました(図5)。石の上には、張り付いた状態で土師器皿^{はじき}(素焼きの土器、かわらけ)が出土しました。土師

器皿は一八世紀中頃のものであり、閑院宮家がこの土地に邸宅を築いた時期と一致しました。これによって、川原石が据えられた池底が、作庭当時の旧池底に相当することわかりました。また、調査を進める中で、旧汀の上部は新池底を造る際に、壊されていたことなども判明しました。

中島には、高さ約一・五メートルと約一メートルの二つの景石が据えられていました。景石の根元周辺には、粗割りされた石が積み上げられています。景石はこれらの石の上に据えられていません



図5 北岸と中島の間で見つかった旧池北岸(南から)

でした。そこで新池底の一部を除き去ると、軒棧瓦のきんがわを立てて護岸にした部分が現れ、次にすべて取り除いて旧池底を出すと、高さ〇・五〇・六メートルの川原石が景石の根元に立てて据え付けられている状態で見つかりました(図6)。これらのことから、景石と粗割り石は作庭当時のものではなく、新池底が作られた頃、または更に新しい時期に積んだり、積み直されたりしていることが明らかになりました。

平成一七年度の調査は、池のおよその様子を前年度の調査から



図6 中島北部に据え付けられた景石と川原石(北から)

得ていたので、整備工事に伴う立会調査を行いました。

まず、北岸の旧状が明確ではなかったため、四箇所旧陸部の検出を試みました。前年度の結果と同じように、盛土がされているために、汀が急勾配になっていたことが明らかとなりました。また、盛土の直下に焼土と焼け瓦を含んだ焼土層を検出しました。この焼土層は、天明八年(一七八八年)の火災または元治元年(一八六四

年)の火災の際に、焼け落ちた建物部材を片付けた時のものと考えられます。宮家の邸宅は、いずれの火災においても焼失していませんが、今回調査をした部分では、一層分の焼土層しか確認できず、また遺物が瓦以外出土しなかったため、どちらの時期か特定できず、いつ盛土されたのかを明確にすることができませんでした。

池底の復元をするにあたって、すべての堆積土が除去され、作庭



図7 旧池全景(東から)



図8 南岸の洲浜（東から）

当時の汀が新池底の南東寄り、つまり中島を中心にして良好な状態で残っていることがわかりました（図7）。作庭当時の北汀や西汀は、上部が新池底に壊されているため二〜三分の石が残っているだけでしたが、緩やかな勾配が付いていました。南汀は池底から陸部にかけて緩やかな勾配をもつ洲浜になり（図8）、中島の南裾部で川原石を敷き詰めたと考えられる旧中島も残存していました（図9）。ほとんどの汀の上部が新池底に壊される程度でしたが、南汀は陸部から池底の旧状を知ることができる資



図9 旧池に伴う中島
（南から：手前の低い礫敷き部分）

料となりました。東側については、東築地塀によって分断され、塀以东の池は埋められていることは、既に述べた通りです。調査によっても、塀によって切られたことによる影響と考えられる北東部の旧汀石の乱れを確認しています。このような調査を経ることで、調査前からは想像できなかった作庭当時の池の姿を知ることができ、示す大きな成果となりました。また、上皇の住まいであった仙洞御所（護岸の一部に洲浜がある）に続く洲浜を持つ庭園であることが

ぼたん鍋と
京料理

京・上御霊前烏丸西
☎075・441・0600代

畑かき

ら、皇室の格式と伝統を意識した作庭であったことが窺い知れる、貴重な宮家の庭園遺構と位置づけることが可能となりました。最後に、実際に観賞して頂きたいと思い、復元整備後の庭園の写真は掲載していません。この冬、宮家庭園の往時の姿に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。
（財京都市埋蔵文化財研究所
近藤奈央）

葉 匠

本家 玉壽軒

〒602-8435 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319・414-0319

新・古茶道美術品

清昌堂
やました

京都店・京都市上京区小川通寺ノ内上ル
〒602-0061 TEL (075) 431-1366
FAX (075) 431-1370

東京店・東京都新宿区市ヶ谷甲良町1-8
〒162-0856 TEL (03) 5261-4566
FAX (03) 3235-5677



京のおばんざい教室

9月28日に京都の食文化を学ぶ「京のおばんざい教室」が開催されました。

「畑かく」を会場にして、新造一夫社長から伝統に培われた京料理についての奥深いお話を実演を交えながらして頂きました。

講義の後には、「畑かく」特製のお弁当を美味しくいただきながらの楽しいひと時でした。

上京区
イベント

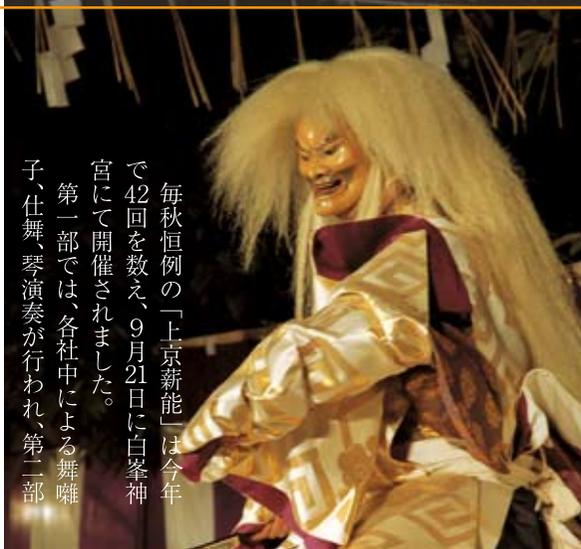


秋の「ガーデニング」教室

毎回好評の「ガーデニング教室」が11月28日にホテルルビノ京都堀川にて開催されました。

今回も「花工房」白居季生社長を講師にお迎えし、懇切丁寧な説明を受けました。

クリスマスに向けての華やかな寄せ植えが出来上がるにつれて、教室は活気にあふれ、土や花、緑を通して自然に親しむ良い機会となりました。



毎秋恒例の「上京新能」は今年で42回を数え、9月21日に白峯神宮にて開催されました。
第一部では、各社中による舞囃子、仕舞、琴演奏が行われ、第二部

上京新能

では、いちひめ雅楽会舞楽「蘭陵王」、宮城社・麻ノ会琴「君が代変奏曲」、金剛流舞囃子「船弁慶」、大藏流狂言「寝音曲」、観世流能「鶴」等が演じられました。
例年にも増して多くの方々が来場し、外国人も多数鑑賞される中、夕闇を照らすかがり火のもとで、幽玄の世界が繰り広げられました。



秋の上京茶会

秋の上京茶会が、11月12日京都御苑内の「拾翠亭」にて裏千家の懸釜により開催されました。
江戸時代後期に建てられた旧九条家の別邸「拾翠亭」は、前方に広がる九条池の向こうに東山を借景として取り入れた数寄屋風書院造の建物です。

当日は、深まる秋に時雨と寒気が加わる天候ではありましたが、貴重な文化遺産を身近に感じながらいただく一服のお茶は味わい深いものでした。





ふるあいままつり

2006

上京区
イベント

「上京区民ふれあいまつり 2006」が10月28日に、新町小学校にて開催されました。

晴れ渡った秋空のもと、各学区・団体による模擬店やお遊びコーナーは大盛況で、特設ステージでは新町小学校、上京中学校の児童、生徒による音楽演奏や会場全体を巻き込んでの大道演劇ショーなどがくりひろげられました。

まつりにはちびっこからお年寄りまでたくさんの区民が訪れ、楽しい一日を過ごしました。



「上京区民ふれあい史蹟ウォーキング」が、秋深まる11月26日に開催されました。

上京区民 ふれあい史蹟 ウォーキング

上京区
イベント

上京区散策マップ「上京を歩く」の「茶の湯にゆかりの道を歩く」コースを基に、扇町公園をスタートし、妙顕寺や報恩寺、相国寺を経由して、上御霊神社までの約3キロを歩きました。区内の史蹟や文化に触れるとともに、清々しい汗をかきながらウォーキングを楽しみました。

文化 大学

上京区民ふれあい

「インド舞踊」 —ヒンズー寺院の踊り—



様々な文化に関心を持っていただくとう開催している「上京区民ふれあい文化大学」が、11月16日に、同志社大学寒梅館クロージャーホールにて開催されました。

今回は海外公演の経験豊富なインド舞踊家シャクテイさんにインド古典舞踊と創作舞踊の披露を、母で舞踊研究所主宰のヴァサンタマラさんに、踊りの解説やインド舞踊のお話をいただきました。

参加者は優美で情熱的な踊りを堪能し、ひとときインドの文化に触れることができました。

12月の人権月間にあわせ

て、12月14日に、同志社大学寒梅館ハーディーホールにて、人権講演会が開催されました。

今回は、講師に読売テレビ解説委員の辛坊治郎氏をお招きし、「情報の正しい選び方 ～人権を侵害しないために～」というテーマで、難しくとらえがちな人権問題や情報の大切さについて、ユーモアや実例を織り交ぜながら、分かりやすく講演していただきました。普段気付かない問題について見つめ直す機会となった有意義な講演会となりました。



宴会・婚礼・会議
宿泊・レストラン

くつろぎ ¥4,200(税サ込)

ホテル ルビノ京都堀川

〒602-8056 京都市上京区東堀川通下長者町
TEL 075-432-6161(代) FAX 075-432-6160 <http://www.rubino.gr.jp/>



ゆどうふ、ゆばなべ
南禅寺 **うどん** **正**

左京区南禅寺門前 電話 075-761-2311
<http://www.to-fu.co.jp>

酢一筋の商い、伝統の滋味。

伝統から未来へ

京・西陣 孝太郎の酢

(有)林孝太郎造酢

京都市上京区新町寺ノ内上ル東入道正町455

TEL (075) 451-2071

FAX (075) 451-8028



「上京 史蹟と文化」は上京区役所まちづくり推進課で販売致しております (TEL 441-5040)

花にまつわるエピソード...
季節も添えて演出します。



心のこもった贈り物 Flower Gift

花束 アレンジメント グリーンバスケット スタンド花 etc

フラワーアレンジメント教室 開催中!!!



本店 京都市上京区丸丸通今出川下ル
TEL.075-414-8700(代) FAX.075-414-7787
フリーダイヤル 0120-46-8700
URL:<http://www.hanakobo.co.jp>

長岡店 長岡京市1丁目セブン通り

TEL&FAX 075-957-0187

大津店 大津市萱野浦 ロイヤルオークホテル内

TEL&FAX 077-545-5587

本店2FにてCafeも営業しております。



創立以来七十余年に
わたって、
和やかな家庭的な
雰囲気にも包まれつ
就学前教育の
本流をめざして、
保育を続けて
参りました。
幼児たちは
楽しい遊びを通して、
人生に必要な生きる
力のすべてを手に入れます。

学校法人 北野幼稚園

京都市上京区御前通一条下る (北野天満宮バス停下車南100m)

TEL.463-0111(代)

http://homepage3.nifty.com/kyotokitano_k/



創業文暦五年 宮内庁京都御所御用

京菓子司 俵屋吉富

本店 京都・室町上立売 電話 (432) 2211代

烏丸店 京都・烏丸上立売 電話 (432) 3101代

◆お詫び 前号(31号)の「上京の町家」の「瀨川家住宅の所在地は「妙心寺道天神道西入堀川町」の誤りでした。お詫びして訂正します。

いつまでも健康に——。
サン・クロレラ

安全真話

安心のために。伝えたいのは「真実の話」です。



サン・クロレラAは日本製法特許No.3143636、
米国製法特許No.5330913を取得しています。

食品の安全性に対する「神話」が崩れだしている現在…。消費者の皆様が目が厳しくなる中で、私たちはあえて伝えたいことがあります。創業以来、品質にこだわり続けたサン・クロレラは「安全」に対する厳しさを知っているということ。その結晶のひとつが「サン・クロレラA」。すべてを自社責任のもとに開発から製造まで管理し、GMP認定工場*で厳重な検査のもとに生産しています。さらにお届けに関しても自社グループにより直接お客様のお手元へ。製品の正しいご理解と安心してご利用いただくためのアフターフォローも行っています。おかげさまで30年以上にわたってご愛顧いただき、お客様は日本だけでなく世界の国々へと広がっています。もし品質にわずかな不安でもあれば、これほど長い間にわたり愛され続けることはなかったでしょう。安全のために努力を惜しまないという「真実」。これこそがお客様の求める「安全真話」に込められる理由です。

*財団法人健康・栄養食品協会のGMP基準に合格した認定工場。



サン・クロレラAは日健栄協に認定されています。

財団法人日本健康・栄養食品協会の認定マークは、品目別規格基準に基づき、協会の厳正な審査をパスした製品に対してのみその表示が許可されたものです。サン・クロレラAの製造工場はISO9001の認証を取得しています。